



2015年(平成27年)10月期

決算説明会資料

株式会社オービス

代表取締役社長 なかはま ゆう じ
中浜 勇治

(東京証券取引所(ジャスダック市場)、証券コード:7827)

2015年12月25日

●目次

PART1 会社の概要	3	PART3 市場環境と今後の取組み	12
●プロフィール	4	●木材事業の市場環境①	13
●経営理念・沿革	5	●木材事業の市場環境②	14
		●木材事業：取組みの進捗状況	15
PART2 2015年10月期の連結業績	6	●ハウス・エコ事業の市場環境	16
1. 連結損益計算書	7	●ハウス・エコ事業：今後の取組み	17
2. セグメント業績		●アミューズメント事業の市場環境と 今後の取組み	18
●木材事業	8		
●ハウス・エコ事業	9		
●アミューズメント事業	10		
3. 連結貸借対照表及び連結キャッシュ・ フロー計算書	11		
		PART4 2015年10月期の業績予想	19
		1. 業績予想(通期)	20
		2. 第2四半期累計期間 業績予想	21
		3. 業績予想の要旨	22
		4. 予想配当	23
		PART5 中期計画の概要	24
		●連結売上高	25
		●連結経常利益及び連結当期純利益	26
		●本資料お取扱上のご注意・IR担当窓口	27

PART1

会社の概要



ニュージーランドの松林(写真提供:住友林業株式会社)

ニュージーランド松製材の国内最大手

当社グループは、木材、ハウス・エコ、アミューズメント、不動産の4つの事業を基盤にビジネスを展開しております。特に主力の木材事業では、ニュージーランド松(ラジアータパイン)製材の国内最大手の評価を頂いております。

会社名	株式会社オービス
設立	昭和34年11月
代表取締役社長	中浜 勇治(なかはま ゆうじ)
資本金	6億8,498万円
従業員数	175人(2015年10月末現在)
連結売上高	79億円(2015年10月期末)
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築及び太陽光発電システムの請負、自然エネルギー等による発電事業、カラオケハウス及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買
本社	〒729-0105 広島県福山市南松永町四丁目1番48号
連結子会社	株式会社パル

●社名の由来●



当社社名の「オービス(ORVIS)」とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です。みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております。

経営理念

顧客満足・社員満足

当社グループの経営理念「顧客満足・社員満足」は、「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様に利益を還元していく」という意味をあらわしております。

■ 当社グループの主要な沿革

昭和34年 11月	有限会社中浜材木店を設立	平成 4年 4月	株式会社オービスに商号変更
昭和37年 5月	広島県世羅郡世羅西町(現世羅町)に製材工場を建設	平成12年12月	パナマにTUI MARITIME S.A.を設立(平成26年9月解散)
昭和43年 3月	ニュージーランド松の製材工場建設 同時にプレハブ部材の生産開始	平成14年 8月	木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン)完成、航海開始(H26.5売却)
昭和46年 6月	広島県福山市に製材工場移転 同時にプレハブハウスの完成品を販売開始	平成14年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、営業開始
昭和49年 9月	有限会社中浜材木店を組織変更し、中浜材木株式会社を設立	平成15年 5月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、不動産賃貸開始
昭和62年12月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、不動産賃貸開始	平成18年 9月	ジャスダック証券取引所に上場(現東京証券取引所JASDAQ市場)
平成元年 4月	カラオケハウスの製造販売開始	平成20年 8月	木材事業姫路工場稼働開始(H26.11閉鎖)
		平成22年 2月	太陽光発電パネル等の施工・販売の開始

PART2

2015年10月期の連結業績

1. 連結損益計算書

(単位:百万円)

	2014年	百分比	2015年 業績予想	2015年	百分比	前期比	業績 予想比
売上高	9,219	100.0%	7,839	7,966	100.0%	86.4%	101.6%
売上総利益	1,522	16.5%	1,330	1,441	18.1%	94.7%	108.3%
販売費及び 一般管理費	1,029	11.2%	1,050	956	12.0%	92.9%	91.1%
営業利益	493	5.3%	280	484	6.1%	98.3%	172.9%
経常利益	409	4.4%	244	452	5.7%	110.6%	185.0%
当期純利益	1,241	13.5%	222	370	4.6%	29.8%	166.5%
1株当たり 当期純利益	717.20円	—	128.44円	213.88円	—	—	—

- 木材事業は、姫路工場閉鎖の影響により自社製品の販売量は減少(前期比73.9%)、販売価格は上昇(前期比106.2%)、国産の杉・檜・カラ松等の商材販売量は大幅に増加(前期比356.3%)。
- ハウス・エコ事業は、再生可能エネルギー政策の転換により太陽光発電の売上高が大幅に減少(前期比34.8%)。
- 当期純利益は、前期に計上した木材運搬船の固定資産売却益6億63百万円がなくなり、減益となる(前期比29.8%)。

2. セグメント業績 ● 木材事業

- 自社製品の出荷量は87千 m^3 (前期比73.9%)となったものの、製品販売価格は上昇(前期比106.2%)し、安定的に利益を確保。
- 営業担当者の増員等により、顧客への営業訪問回数を増加させ、顧客ニーズを的確に把握。
- 国産の杉・檜・カラ松等の商材仕入先を北は北海道から南は鹿児島まで日本全国に仕入先を開拓。
- 国産の杉・檜・カラ松等の商材販売量は37千 m^3 (前期比356.3%)となり、利益を上積み。

■ 木材事業の業績

(単位:百万円)

	2014年 実績	百分比	2015年 実績	百分比	前期比
売上高	5,176	100.0%	4,916	100.0%	95.0%
営業費用	4,894	94.5%	4,458	90.7%	91.1%
営業利益	282	5.5%	457	9.3%	162.2%
平均為替 レート(円)	104.1	—	117.2	—	112.6%

● ハウス・エコ事業

- 太陽光発電システムは、再生可能エネルギー政策の転換により、大型案件が減少し、売上高は4億85百万円(前期比34.8%)となる。
- ハウスの官公庁向けの販売物件は、放課後児童クラブ等の大型物件を複数受注したため、増加(前期比186.2%)したものの、民間向けは、大型物件の完工が翌期にずれ込んだ影響等もあり減少(前期比88.3%)となる。
- 売上高は、25億77百万円(前期比78.2%)となったものの、官公庁・民間共、建設需要の増加により、2015年10月末現在の受注残高は20億65百万円(前期比156.3%)と高水準を維持。

■ ハウス・エコ事業の業績

(単位:百万円)

	2014年 実績	百分比	2015年 実績	百分比	前期比
売上高	3,296	100.0%	2,577	100.0%	78.2%
営業費用	3,026	91.8%	2,420	93.9%	80.0%
営業利益	269	8.2%	157	6.1%	58.5%

● アミューズメント事業

- カラオケ部門の売上高は、5店舗の営業譲渡と1店舗の閉鎖により減少（前期比23.7%）。残りの1店舗も2016年1月に閉鎖予定としており、カラオケ事業から撤退。
- ゴルフ場部門の売上高は、冬場の悪天候により微減（前期比94.6%）。
- カラオケ事業に代わる新規事業として、フィットネスクラブの1号店を2015年11月に広島県福山市にオープン。
- フィットネスクラブの開店一時費用の計上もあり、営業利益は大幅に減少（前期比4.1%）。

■ アミューズメント事業の業績

（単位:百万円）

	2014年 実績	百分比	2015年 実績	百分比	前期比
売上高	647	100.0%	381	100.0%	58.8%
営業費用	601	92.9%	379	99.5%	63.0%
営業利益	46	7.1%	1	0.5%	4.1%

3. 連結貸借対照表及び連結キャッシュ・フロー計算書

■ 要約連結貸借対照表

(百万円)	2014年	構成比	2015年	構成比	増減	主な要因
流動資産	4,545	59.0%	5,821	60.7%	1,276	売上債権及びたな卸資産の増加
固定資産	3,157	41.0%	3,771	39.3%	614	機械装置及び運搬具の増加
資産合計	7,702	100.0%	9,593	100.0%	1,891	
流動負債	2,872	37.3%	4,005	41.7%	1,132	仕入債務、短期借入金、設備関係支払手形及びその他(未成工事受入金)の増加
固定負債	3,300	42.8%	3,708	38.7%	407	長期借入金の増加
負債合計	6,172	80.1%	7,713	80.4%	1,540	
純資産	1,529	19.9%	1,879	19.6%	350	利益剰余金の増加
負債及び純資産合計	7,702	100.0%	9,593	100.0%	1,891	

■ 要約連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2014年	2015年	主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,132	△129	売上債権及びたな卸資産の増加、仕入債務の増加
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,229	△527	有形固定資産の取得による支出の増加
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,631	584	短期借入金の増加、長期借入れによる収入の増加
現金及び現金同等物の期末残高	673	601	

自己資本比率
 19.9% 19.6%

有利子負債比率
 55.9% 51.4%

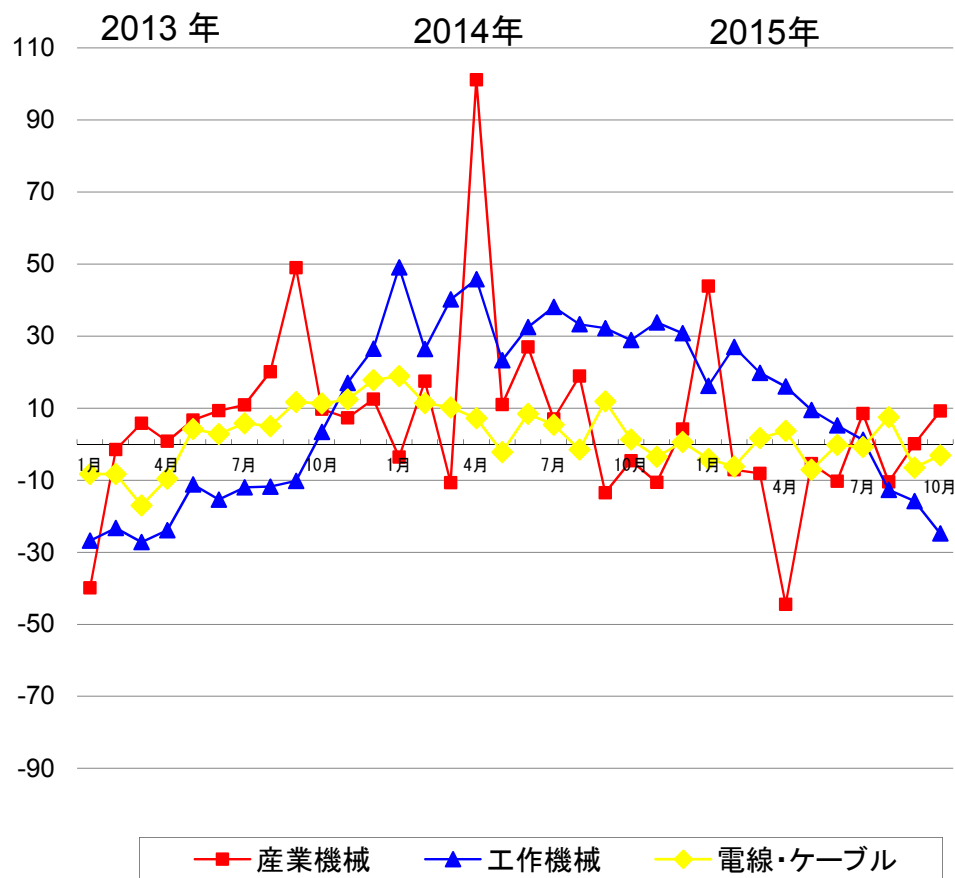
PART3

市場環境と今後の取組み

● 木材事業の市場環境 ①～梱包用材のエンドユーザーの環境

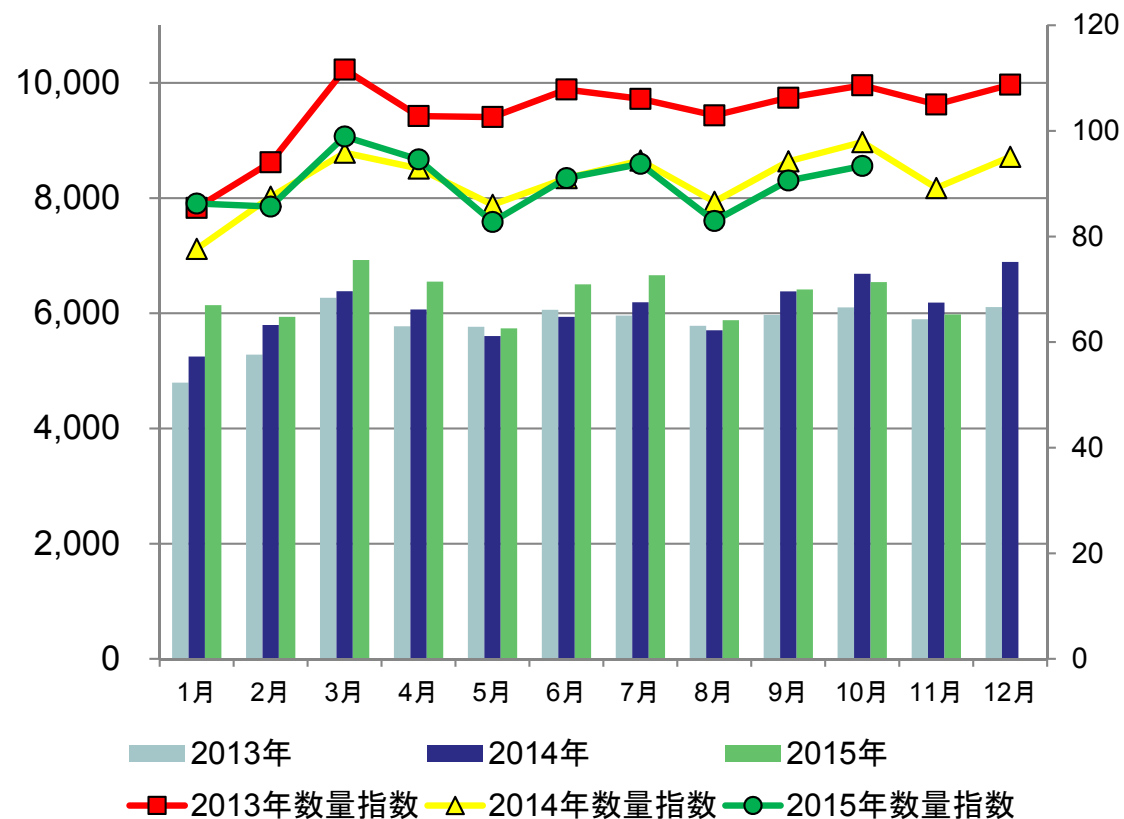
■ 産業機械及び工作機械の受注状況

内閣府経済社会総合研究所 機械受注統計調査
前年同月比 (%)



■ 輸出の状況

財務省 貿易統計 (十億円,%)



輸出金額及び輸出数量

※輸出数量指数は2010年を100とした数値。

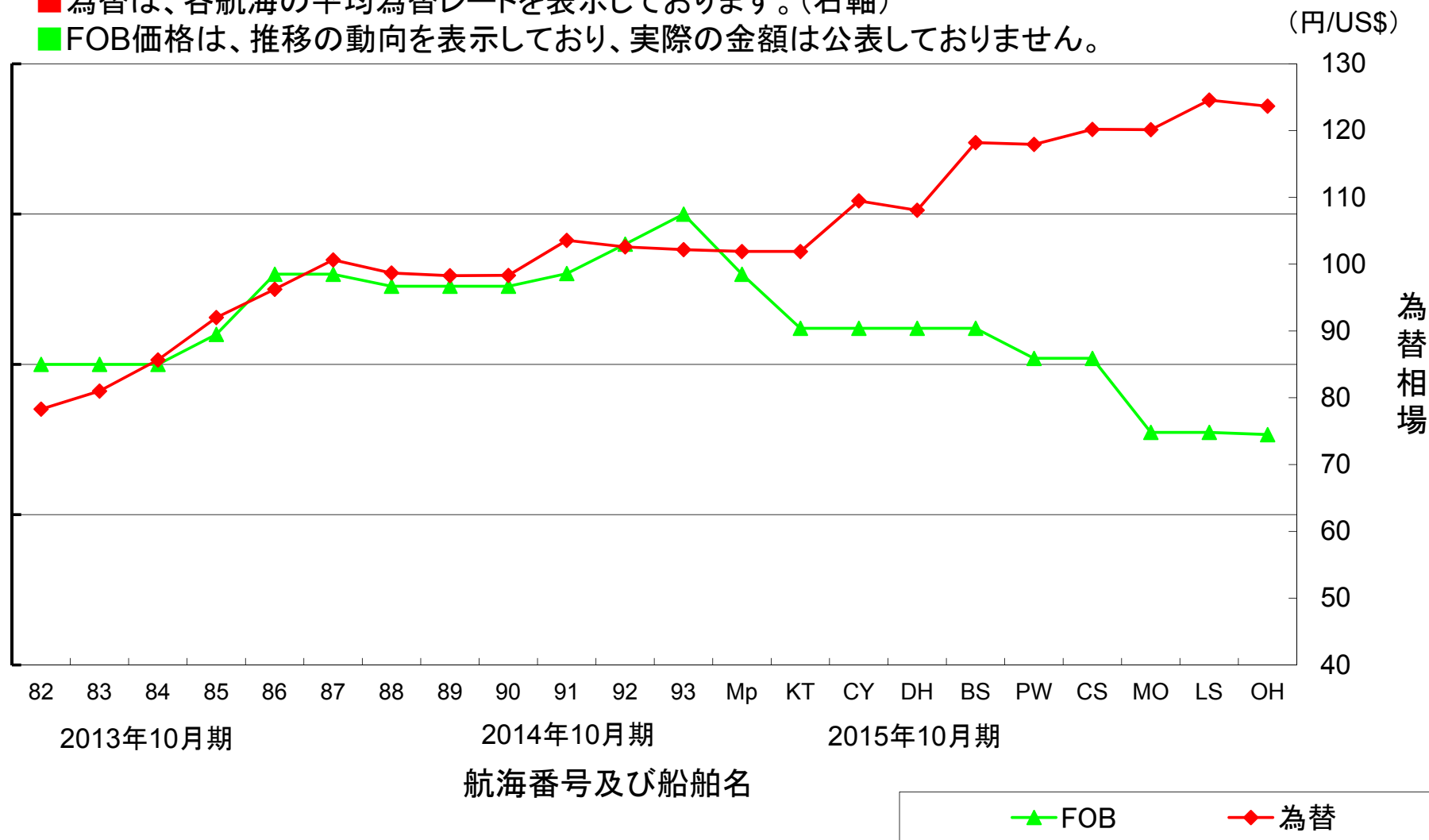
● 産業機械・工作機械等の受注は低調。輸出量も伸びず。

● 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

■ 為替とFOB価格の推移

■ 為替は、各航海の平均為替レートを表示しております。(右軸)

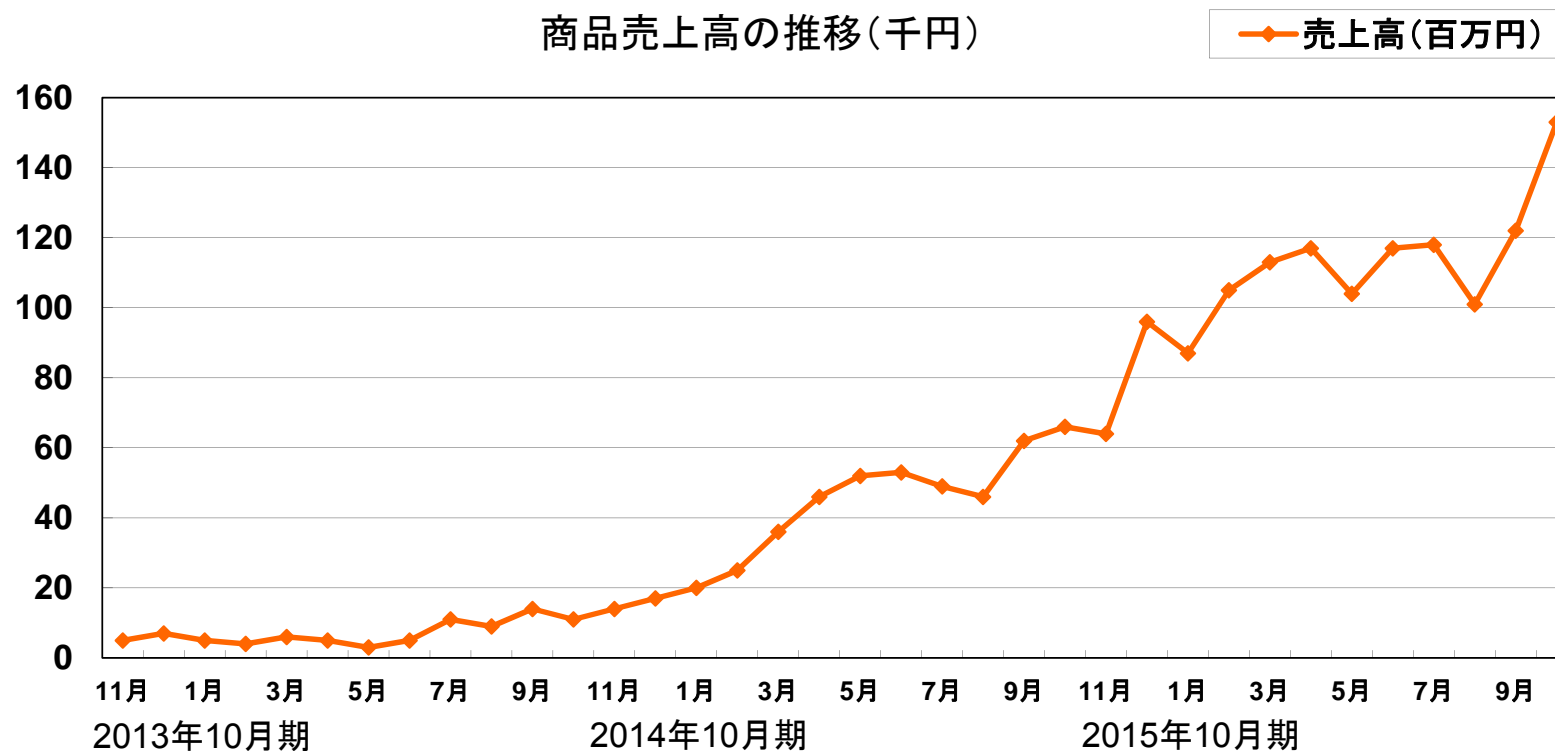
■ FOB価格は、推移の動向を表示しており、実際の金額は公表していません。



● 為替は120円ドル台の円安継続、FOB価格は最大消費国の中国経済の停滞で直近では弱含みで推移。
 ※FOB価格とは、原木を船に積み込んで引き渡すまでの価格のことをいいます。

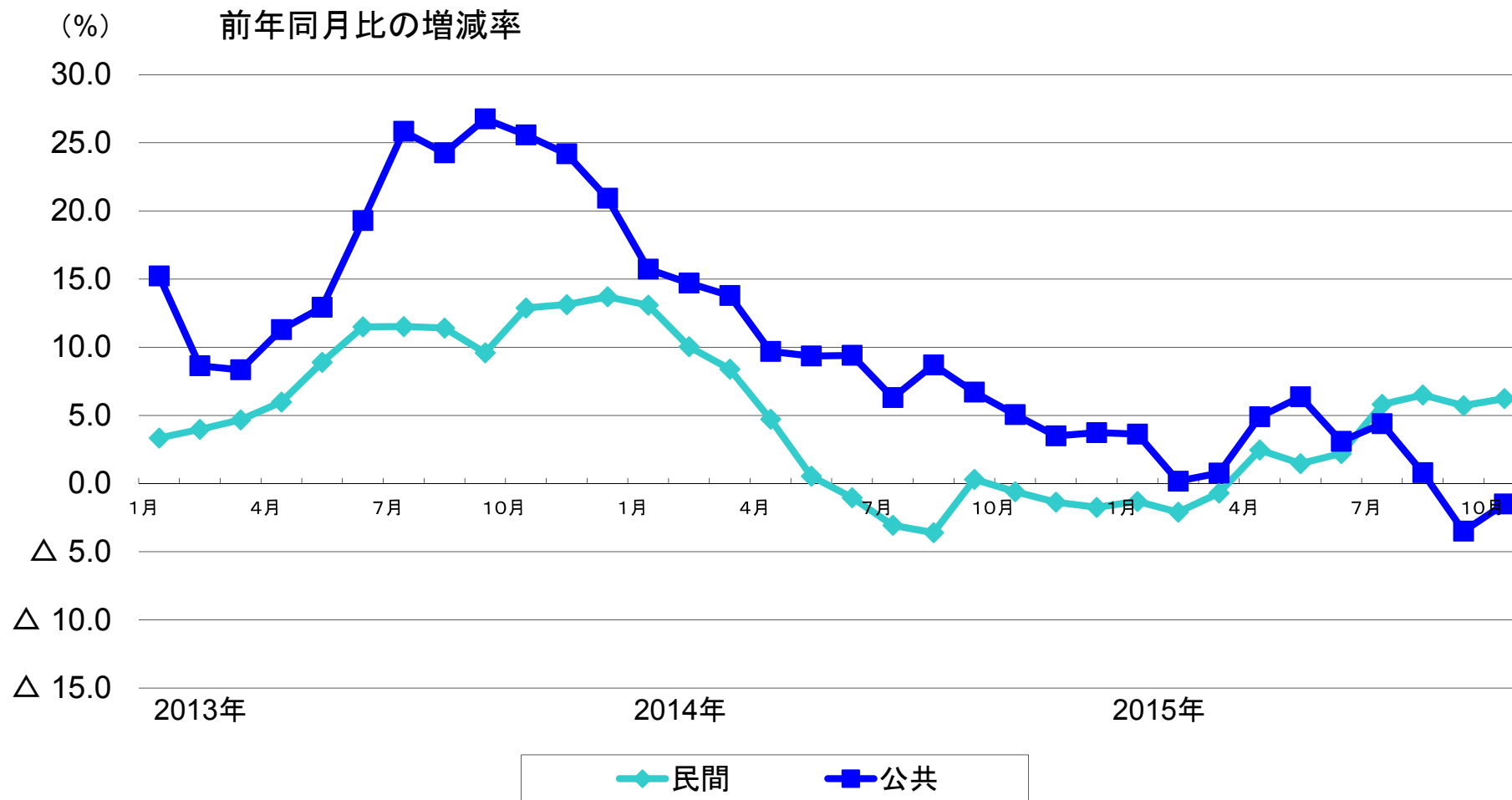
●木材事業：取組みの進捗状況

- 製品出荷量 86,768m³(予算比97.1%)、適正価格による販売(予算比101.3%)。
 - 本社工場で生産するニュージーランド材を適正価格で販売。
(年間原木消化量136,159m³、予算比98.3%)。
- 国産材(杉・檜、カラ松)、外材、LVL等の商材を拡販。
 - 既存の販売ルートを活用し、ニュージーランド材以外の商材を販売。
通期の商材売上高13億2百万円(予算比270.2%)。



● ハウス・エコ事業の市場環境

■ 建設総合統計(出来高ベース) 国土交通省



● 建設需要は、2015年に入り下げ止まりの傾向。

●ハウス・エコ事業：今後の取組み

- 再生可能エネルギー政策の転換に合わせて提案型営業の推進・受注を取り込む。
 - 設備認定済みを中心とした大型案件や50kW以下の低圧案件の取り込み。
 - アフターサービスや蓄電池等関連機器への取組み。
- 堅調な建設需要を取り込む。
 - 学校の耐震改修のための仮設校舎等や放課後児童クラブ等の公共工事や民間の設備投資などプレハブハウス等の受注を取り込む。
 - 営業担当者及び建築技術者の増強、組織の若返り。
- 自社で太陽光発電設備を建設することにより、施工コストを削減し、安定的な売電収入と利益を見込む。
 - 2015年10月末稼動中→→→ 4,509kW
 - 2016年10月末稼動予定→→10,101kW
 - 2018年10月末稼動予定→→11,592kW



自社太陽光発電設備(山口県周南市 941kW)

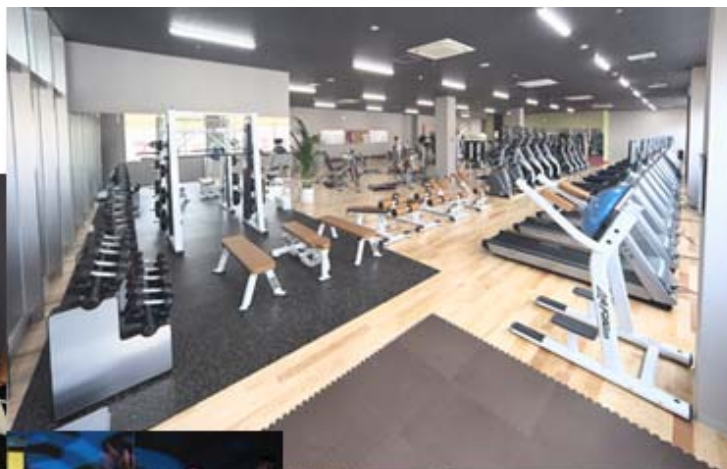


自社太陽光発電設備(愛知県豊橋市 2,394kW)

●アミューズメント事業の市場環境と今後の取組み

カラオケ事業から撤退し、フィットネスを中心としたライフクリエイイト事業へ移行。
 連結子会社 株式会社パルを吸収合併予定(2016年5月1日付)。

■スポパル緑町クラブのオープン(2015年11月8日)



- 広島県福山市の中心地、ショッピングモールの2階にオープン。
- インドアサイクル、トランポリン等を利用した福山市初のスタジオプログラムを導入。
- スタジオにミラーボール等のディスコ風照明を導入。
- 昼間のシニア層、主婦層、夜間の若者、ビジネス層を取り込む。
- 中国地方を中心に今後の他店舗展開を検討。
 管理・運営ノウハウ等の事業基盤を構築。

PART4

2016年10月期の業績予想

1. 業績予想(通期)

(単位:百万円)

	2015年 (連結)	百分比	2016年 (個別)	百分比	前期比
売上高	7,966	100.0%	8,226	100.0%	103.3%
売上総利益	1,441	18.1%	1,478	18.0%	102.6%
販売費及び一般管理費	956	12.0%	1,087	13.2%	113.7%
営業利益	484	6.1%	391	4.8%	80.7%
経常利益	452	5.7%	341	4.2%	75.5%
当期純利益	370	4.6%	354	4.3%	95.9%
1株当たり当期純利益	213.88円	—	205.04円	—	—

- 2016年の業績予想は、平成28年1月28日開催予定の当社定時株主総会において、連結子会社である株式会社パルとの合併議案を上程しており、同議案が承認、可決される前提のもとで作成。
- 木材事業は、足元の梱包用材等の市況を保守的にとらえて、製品販売価格を前期比90.4%、製品出荷量を前期比98.3%、国産の杉・檜・カラ松等の商材販売量を前期比87.4%とした結果、売上高は43億52百万円(前期比88.5%)を予想。
- ハウス・エコ事業は、建設需要の増加と高水準の受注残高を背景に、売上高は35億57百万円(前期比138.0%)を予想。
- フィットネスクラブの1号店を2015年11月にオープンしたことで、減価償却負担や目標会員数獲得までに時間を要することが想定されることから、営業赤字を見込んでおり、全体の営業利益は3億91百万円(前期比80.7%)、経常利益は3億41百万円(前期比75.5%)を予想。

2. 第2四半期累計期間 業績予想

(単位:百万円)

	2015年 第2四半期 (連結)	百分比	2016年 第2四半期 (連結)	百分比	前期比
売上高	4,043	100.0%	4,892	100.0%	121.0%
売上総利益	708	17.5%	930	19.0%	131.4%
販売費及び一般管理費	465	11.5%	590	12.1%	126.7%
営業利益	242	6.0%	340	7.0%	140.5%
経常利益	229	5.7%	316	6.5%	137.6%
四半期純利益	171	4.3%	285	5.8%	166.2%

- 木材事業は、継続して安定的な利益を確保。
- ハウス・エコ事業は、第2四半期累計期間に大型物件の複数完工を見込んでいるため、売上高は前年同四半期比175.5%の24億76百万円を予想。

3. 業績予想の要旨

- ◆ 連結子会社株式会社パルとの合併(2016年5月1日付)。
通期の業績予想は非連結を予定。
- ◆ 木材事業の本社工場の2シフトによる安定操業で安定的な利益を確保。
国産の杉・檜・カラ松等の商材販売を引き続き強化。
足元の梱包用材等の市況を保守的にとらえて、製品販売価格及び出荷量を弱含みで推移予想。
- ◆ 為替レートは1ドル124円を想定。
- ◆ 高水準の受注残高とプレハブハウス等のハウス部門において、建設需要の増加で増収・増益予想。
- ◆ カラオケ事業からの撤退。
- ◆ フィットネスクラブは初年度の減価償却負担や目標会員数獲得までに時間を要することから、営業赤字を予想。オープン3年目に営業黒字化を目指す。
- ◆ 高い専門性を有する人材の確保と既存社員の能力及びスキルの底上げ。

4. 予想配当

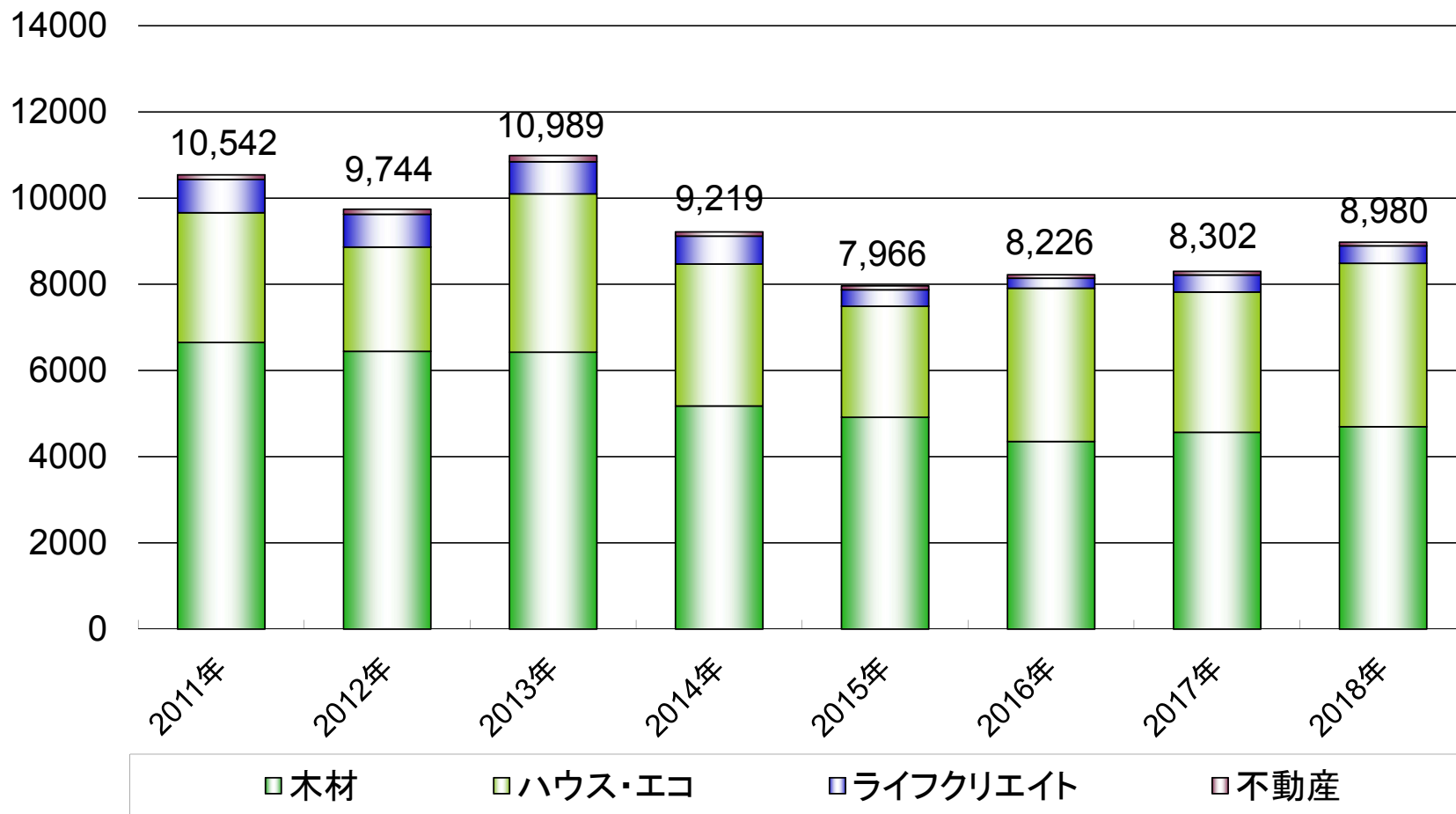
	期末配当	配当性向
2015年 10月期	10.00円	4.7%
2016年 10月期	15.00円	7.3%

PART5

中期計画の概要

● 連結売上高(2016年より非連結予定)

(百万円)

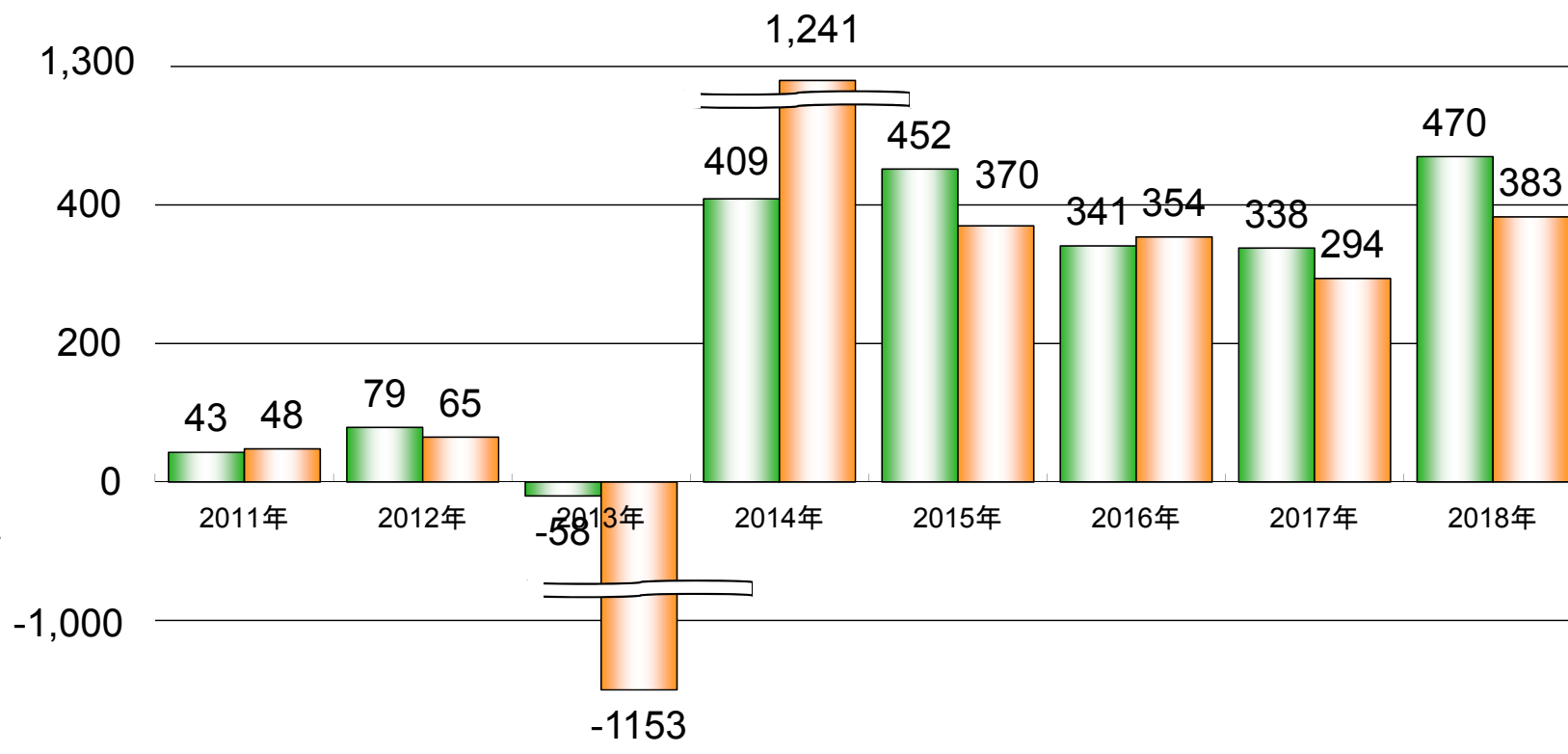


- ・ 木材事業は、本社工場の生産分と国産の杉・檜・カラ松等の商材販売の増加により増収。
- ・ ハウス・エコ事業は、堅調な建設需要を取り込むため、専門的な知識を備えた営業担当者及び建築技術者の採用を積極的に推進。また、自社太陽光発電設備の売電収入の増加(全て稼働すると年間約3億80百万円の売電収入)により増収。

● 連結経常利益及び連結当期純利益(2016年より非連結予定)

(百万円)

■ 連結経常利益 ■ 連結当期純利益



- ・ 木材事業は、本社工場の生産分と国産の杉・檜・カラ松等の商材販売で安定的に利益を確保。
- ・ ハウス・エコ事業は、専門的な知識を備えた営業担当者及び建築技術者の採用を積極的に推進し、売上高の増加を図る。
- ・ 自社太陽光発電設備の建設を行い、安定的な売電収入と利益を確保。
(2016年には約10メガワット、2018年には約12メガワットが稼動予定)。

●本資料お取扱上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

●IR担当窓口



株式会社 オービス 総務部 梅田 孝史

Tel. 084-934-2621(代)

Fax. 084-934-2624

E-mail: ir@orvis.co.jp

URL: <http://www.orvis.co.jp>